

街の構造と児童の外遊び行動に関する調査分析

- 多摩ニュータウン・若葉台地区におけるケーススタディー -

正会員 ○鈴木麻耶*
同 松本真澄**
同 上野 淳***

子ども 外遊び 多摩ニュータウン
環境行動 遊び場

1. 背景と目的 急激な都市化に伴う遊び場所の減少や、塾通い、TVゲームの普及などの影響で、児童の外遊び行動が減少しているといわれている。健全な地域環境の中で外遊び行動が促され、発育に寄与できる街づくりを行っていくことは重要な課題と考える。本研究は、児童の外遊び行動の実態を把握し、街の構造との関係を分析することで、児童にとって快適な外遊び環境づくりのための地域計画的指針を得ることを目的としている。

2. 研究方法

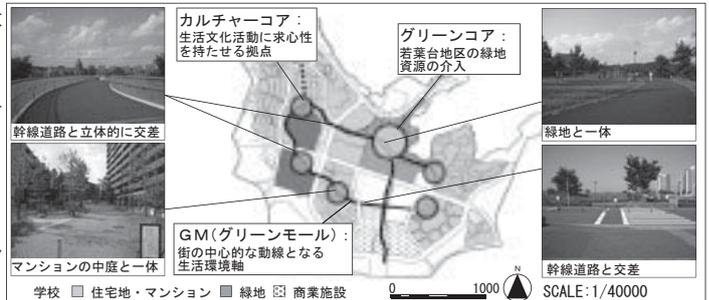
2-1. 対象地域の構造 調査対象地として、特徴的な街区構造を持つ、多摩ニュータウン・若葉台地区をとりあげた。若葉台地区では住区幹線・住区道路と歩行者専用道路を一体化したグリーンモール街路（以下：GM）が環状に街に配置され、住宅と生活施設を結ぶ中心的な回廊として位置づけられている（図・1）。また、GMと一体的に計画された学校を中心としたコミュニティの形成や、街区ごとの明確な機能とまとまりのある計画も本地区の特徴である。

2-2. 調査概要 対象地区全体で児童の外遊び行動に関する時間断面でのマッピング調査を平日（2009年10月13日 15:30、16:30）、休日（2009年11月1日 10:30、13:30、16:30）の2回と、児童の遊びグループの追跡・活動記録調査を7事例について行った（2009年8月17日～11月8日）。なお、本研究では小学生を対象とし、

文中の児童とは小学生を指す。

3. 児童の外遊び行動の実態 今回の調査で見られた児童の活動を「移動」、「遊具等を使用した滞留行動」、「環境利用型の滞留行動」、「ものを使用しない滞留行動」に大別し、さらに11種類に分類した（表・1）。

3-1. 活動場所と活動内容 対象地での活動の分布を図・2に示した。GMの環状部分から距離のある公園には児童が少なく、GMとの位置関係が遊び場所に影響を与えているといえる。遊び場所の割合（図・3）は、平日はPLやマンション構内、休日は公園・緑地での活動が多く、平日の放課後と休日での遊び場所の使いわけがみられる。また、児童同士の活動で、PL、公園・緑地と並んでマンション構内での活動割合が多いことは特徴的である。平日・児童同士での活動場所と内容の関係（図・4）からは、マンション構内で、PLや公園・緑地に見られるような様々な活動が展開されていることがわか



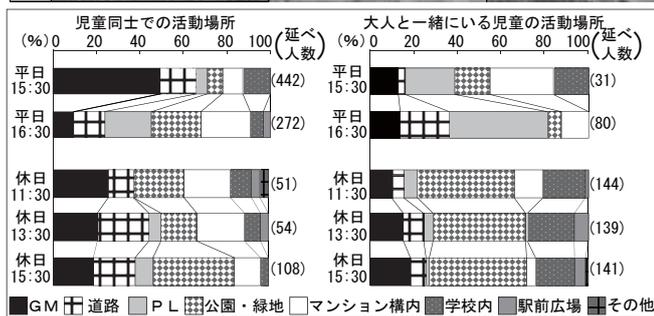
図・1. 若葉台地区の街の構造



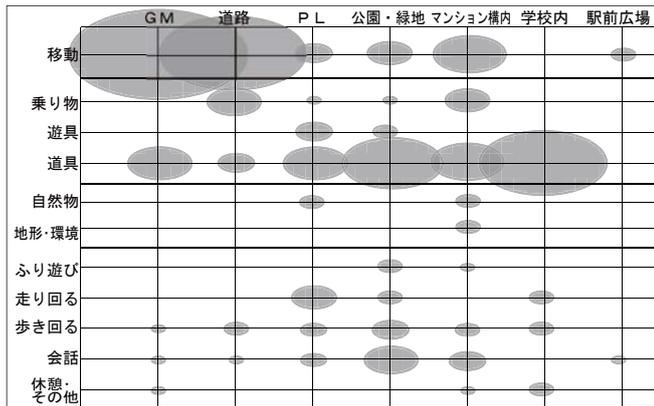
図・2. 若葉台地区における児童の屋外活動の分布

表・1. 児童の屋外活動の分類

移動		遊具等を使用した滞留行動			環境利用型の滞留行動	
行為名	A 移動	B 乗り物遊び	C 遊具遊び	D 道具遊び	E 自然物遊び	F 地形・環境遊び
行為内容	歩き・自転車等による移動	自転車・キックボード・一輪車等	複合遊具・砂場・ブランコ等	ボール・ゲーム機等持参した道具で遊ぶ	草・土・水・虫等	塀に登る・坂を転がる等
写真						
ものを使用しない滞留行動						
行為名	G ふり遊び	H 走り回る	I 歩き回る	J 会話	K 休憩	
行為内容	ごっこ遊び・おままごと等	追いかっこ・走り回る等	うろろろする・歩き回る等	おしゃべり	座って休む・ポーとする	
写真						



図・3. 児童の活動場所の分析割合

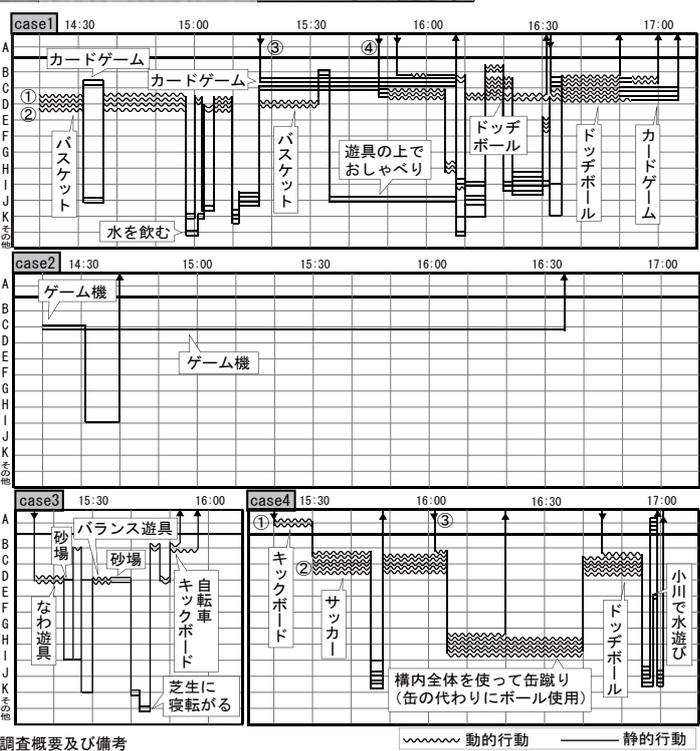


図・4. 活動場所と活動内容の関係 (平日・児童同士)

る。構内の噴水、小川、広場などの環境構築が児童の遊びを誘発し、ここが安定的な遊び場になっているものと考えられる。

3-2. 時系列的にみた児童の活動について

本調査では7事例の児童の遊びグループの追跡を行った(図・5)。これによると、様々なきっかけで児童は分刻みに活動内容を変化させていることがわかる。さらに、活動内容と遊び場所の関係から、遊び場所の決定方法には以下の3パターンがあると考えられた。①活動内容が場所に関係している場合 (case1: バスケットゴールのある公園で比較的長時間バスケットボールをしている)、②活動内容が場所に関係していない場合 (case2)、③大人の見守りが活動場所に影響する場合 (case3)。尚、case4では、マンション構内において、構内全体を使った缶蹴りや小川での水遊びなど、構内計画が遊びを誘発している様子



調査概要及び備考	case1: 公園・緑地	case2: 公園・緑地	case4: マンション構内
平日 晴れ	①高学年・男・2人 自転車2台・カードゲーム持参	祝日 曇り 低学年・男・2人 ゲーム機2台・本数冊持参	休日 曇り ①低学年・男・2人 キックボード2台・ボール1個持参
	②高学年・女・2人 自転車2台・ボール1個持参		②低学年・男・4人 キックボード1台
	③高学年・男・2人 自転車2台持参	case3: PL 平日 晴れ 低学年・男・2人 親と一緒に 自転車1台持参	③野球ボール1個持参 ③低学年・男・1人
	④低学年・男・3人 自転車1台持参		

図・5. 児童の屋外活動の時刻変化の事例

が窺える。

4. まとめ 以上から、若葉台地区では、計画的に作られたマンション構内が児童の遊びを誘発していることがわかった。遊具だけでなく、小川や斜面や回遊性といった環境要素が遊びに多様性を与え、外遊びを豊かにする要素であるといえる。また、児童の滞留と移動の両方の行動において歩行者専用空間は影響を与えており、外遊びにおける安全性と、遊び場選択に多様性を与える上で有効であるといえる。

* 首都大学東京大学院 建築学域 博士課程前期
 ** 首都大学東京大学院 建築学域 助教
 *** 首都大学東京大学院 建築学域 教授・工博
 * Division of Arch., Graduate School of Arch., Tokyo Metropolitan University
 ** Division of Arch., Graduate School of Arch., Tokyo Metropolitan University
 *** Prof., Graduate School of Arch., Tokyo Metropolitan Univ., Dr.Eng.